

Style of Work

vol. 42

事務所探訪

取材・文 / 佐藤裕子 撮影 / 刑部友康

ビジネス訴訟で比類なき実績を挙げる
米国屈指のトライアルローヤー集団

クイン・エマヌエル・アークハート・サリバン
外国法事務弁護士事務所



左より、マーク・ワインステイン弁護士(オフカウンセル)、ウェイン・アレキサンダー弁護士(パートナー)、ライアン・ゴールドSTEIN弁護士(東京オフィス代表)

知的財産権、中でも特許権を中心にビジネス訴訟を専門とする全米有数の事務所。東京オフィス代表のライアン・ゴールドSTEIN氏にその真価を尋ねた。「最大の特徴は、トライアル(陪審員の前での裁判)に特化していること。アメリカでも、トライアルまで進むケースは全訴訟の約5%です。しかもその5%は、和解等の折り合いがつかない難しい訴訟。これを引き受けるのが、われわれです」

その勝訴率は91・3%を記録するという。また、ITC(米国際貿易委員会)の審議で無敗過去5年間の調停・判決では150億円以上を獲得するなどの成功も収める。トライアルでの勝訴および、こうした実績が相手方へのプレッシャーとなり、速やかな和解を可能にするケースもある。多くの国内大手企業が海外での訴訟時に同事務所を頼みにするが、その先頭に立つのが、日本企業の訴訟ニーズを熟知し、微妙な意味合いまで読み取るほど日本語が堪能な、ライアン、ウェイン、マーク三弁護士である。

一例に、日本の電子工学メーカーを代理したITCのケース

がある。米国輸入者・販売者が販売した1000の侵害品について、11の特許権と31のクレームを主張し、全世界の企業に対して侵害品たるカートリッジすべての輸入と販売を禁じる排除命令をITCから引き出した。知的財産訴訟や独占禁止法にかかわる案件などの代理を通じて、様々な企業とコミュニケーションを図り、「訴訟もビジネス戦略の一つ」とアドバイスを行ってきた。ウェイン氏は、こう語る。

「日本企業は資産としての特許を数多く持っているにもかかわらず、それを生かし切れていない。せっかくの権利を、直接の利益のみならず、公正で競争力のある市場つくりのためにも、もっと活用すべきです」

同事務所が特化するトライアルは、大概が難局であり、相当な集中力や明敏さが要求される。「陪審トライアルと裁判官トライアルでは、弁護士としての戦略は異なりますが、特に前者では心理学をベースに、陪審員の関心をこちら側に引き寄せるためのスピーチ構成、理解されやすい言葉の選び方に配慮します。下準備の一つとして模擬裁判を実施し、その中でクライアントに有利な議論の進め方やポイントを探り出します」

同事務所の新人弁護士は、トレーニングの一環として必ず、模擬裁判を経験する。その様子を映像で記録し、スピーチ、目

の配り方、挙措など、自身を客観的に見るための訓練を行うという。民事・刑事の違いはあれ、裁判員裁判に直面する日本の弁護士にとっても、こうした同事務所の裁判への臨み方は、「勝てる弁護士になるためのヒント」となるのではないかと。

同事務所が関与する案件は、一人で立ち向かえる規模ではない。ゆえに国内外の拠点をまたいだチームワークが醸成されていると、ライアン氏。また二人は、「当事務所では『マイ・クライアント』という表現は厳禁です。個人的に仕事をするのはなく、チームで仕事をする点が素晴らしい。目的を共有し、その達成のためにまい進できる優秀な仲間と一緒に働ける幸せを感じています」と語る。

勝訴にこだわり抜くための精神的・肉体的なタフネスを備えた弁護士たち。その支えの一つが強いフレンドシップなのだ。



日本文化に造詣の深いライアン氏が集めた古地図や骨董品が飾られたオフィス。相撲好きが高じて佐渡ヶ嶽部屋の朝稽古に弁護士全員で特別参加したことも。なおライアン氏はボクシング、ウェイン氏はトライアスロン、マーク氏はバスケットボールが趣味。そうしたスポーツをとおして交流も深まる。また「リラックスした状態で頭を働かせる」という理由で、本所でも東京オフィスでも、所内ではTシャツにジーンズが当たり前という



権威ある法律専門誌などで、多くの受賞歴を誇る。2011年は「The National Law Journal」の「最も優れた原告側代理を務める法律事務所」として4年連続で表彰され、フィナンシャルタイムズ紙の選ぶ「最も革新的なアメリカの法律事務所」には2年連続で選出された

クイン・エマヌエル・アークハート・サリバン
外国法事務弁護士事務所

所在地: 〒100-0011
東京都千代田区内幸町1-1-7 NBF日比谷ビル25階
TEL: 03-5510-1711 (代表)
http://www.quinnjapan.com/
ロサンゼルスに本所を構え、ニューヨーク、サンフランシスコ、シリコンバレー、シカゴ、ワシントンDC、東京、ロンドン(イギリス)、マンハイム(ドイツ)、モスクワ(ロシア)など世界に支所があり、全体で500名以上が働いている。



東京オフィスはスタッフ3名を加えた6名で運営。カリフォルニア州の「20under40」を35歳で受賞した辣腕のライアン氏、ソニー、ウォルト・ディズニージャパンなどの法律顧問を務めたウェイン氏、電気工学の学位を保有する元特許審査官のマーク氏という布陣

